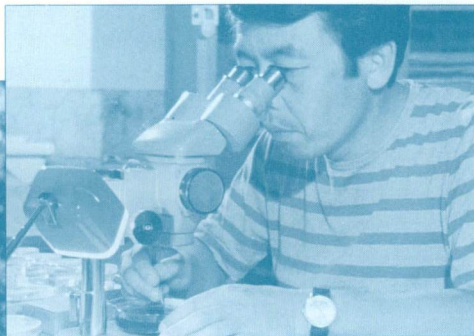
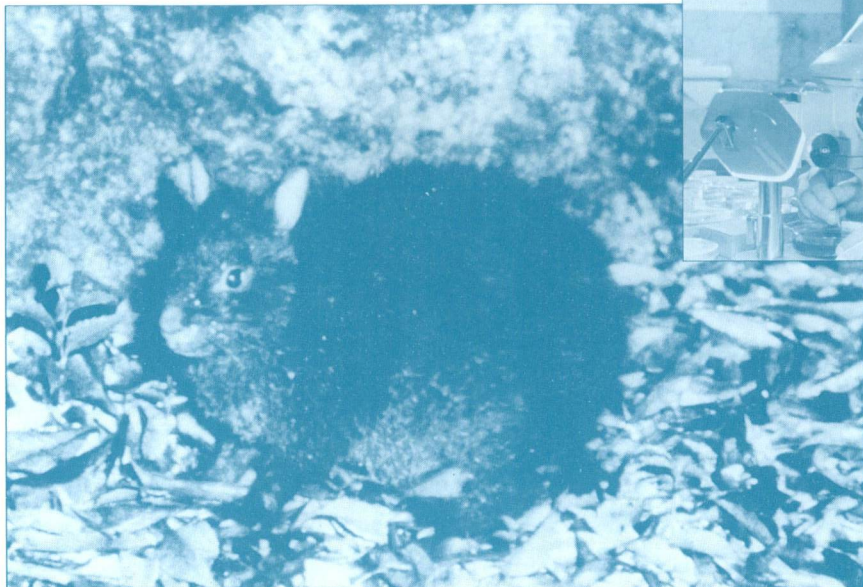


文部省特選
教育映画祭最優秀作品賞 文部大臣賞
毎日映画コンクール 教育文化映画賞
優秀動物愛護映画祭 レディガスコイン賞

科学技術映画祭 長官賞
国際科学映画コンクール 銅賞
日本紹介映画コンクール 特別賞



◀アマミノクロウサギ

企画 日本学術振興会
製作 (株)桜映画社

記録映画 カラー27分

16ミリ ￥180,000
VTR ￥40,000

奄美の森の動物たち

— 自然をさぐる —

■映画「奄美の森の動物たち」その三つの価値

富山医科薬科大学学長 佐々 肇

この映画は、少くとも三つの面で素晴らしい価値がある。

その第一は、地球上でこの奄美の森にしか生息しない数々の貴重な動物たちの姿をはじめて記録したということ、しかもあと数年か数十年したら、この動物たちは、

永遠に姿を消してしまうかもしれないことである。

第二は、画面が大変に美しく、珍しく、面白いことである。

第三は、ある一人の若い研究者と、その家族が奄美の一隅に住みついてから、この森の動物たちの生態を究明することに成功するまでの苦労と努力、そして現場の経験から考え出したいろいろな研究方法が紹介されていることである。

この研究者の本当のねらいは、この映画にふんだんに現れてくる鳥、獣、爬虫類、両棲類たちではなくて、それらに寄生する昆虫やダニ類の分類や生態と、それらが人間や動物の病気の伝染にどんな役目をしているかといった医学的な興味であって、それは何十種類にもものぼる新種の記載など、別に部厚い学術論文としても記録される。しかし、この映画は、文字では絶対に表現できない学術上の記録を未来への遺産として残してくれた。

この映画を見て、多くの人がとは、面白かった、珍しかった、綺麗だったと思うだけかも知れないが、そうした画面の背後に、声や文字では語られていない、素晴らしい学術上の価値がひそんでいる映画であることを特記しておこう。





▲フランネルの布でダニを採集

■この映画の利用対象

小学・中学・高校(理科 生物)
大学・青年・成人(一般教養)

■利用上の留意点

理科学習における探究の過程の重視は、自然科学の成果が流動的、発展的であることを知らせるためにも大切なことがらである。しかし、理科学習展開は、一般に、この探究的学習になりにくいと考えられがちである。それは、教室内で簡単に再現できず、数量化しにくく、個性的で普遍性がないなどの理由による。

この映画は、それらの問題を地道に解決しているように思われる。ここでは最新鋭の機械や設備は登場しない。若い科学者のひたむきな科学の目と創意工夫が全編に満ちている。視聴した後、この若い科学者について感心したことを発表させるのもよいであろう。奄美の動物の生態が、そのまま記録されているのも貴重である。



▲アマミノアオガエル

■製作スタッフ

原案	佐々	肇
製作	村山	英治
演出	村山	正実
撮影	小林	一夫
解説	滝田	裕介
撮影協力	鈴木	博

■あらすじとねらい

奄美、沖縄を含む南西諸島は、きわめて古くから大陸とも日本列島からも隔離されていたために、アマミノクロウサギやルリカケスをはじめとして、そこにとり残されて今日まで生存しつづけてきた生物の多くが、大陸とも日本とも違った「種」に進化し、世界中でも類例のない特異な動物相を示している。

ところが、この群島も、ほとんど全土が開発によって傷つけられ、現在では、原生林としてこれらの動物達が生存しつづけられるのは、奄美の湯湾岳頂上付近のごくわずかな地域を残すのみとなっている。

奄美、沖縄にはハブ咬症、フィラリア病など特有の動物に起因する風土病も多い。これらの対策の研究を目的として、奄美病害動物研究施設が設立された。そこの常駐研究員として鈴木博という研究者が昭和46年から赴任することとなる。

この研究者は、専門分野である衛生昆虫学の領域で、アマミノクロウサギに寄生するツツガムシなどダニ類の新種の発見を数多くしたが、そればかりでなく、暇あるごとに湯湾岳の原生林にわけ入り徹夜でこれらの動物たちの生態を観察しつづけて、数多くの貴重な成果をあげてきた。

彼はツツガムシを追って、この原生林に棲息するさまざまな動物たちの生態を明らかにする。

映画は、奄美の森の動物たち—それは主として夜行性の動物が多いのだが、それらを見事にとらえとともに、自然保護がいかに大切か、無計画な開発がいかに恐ろしいかを訴えている。

この映画は、もともと研究者の行動を通して自然探求の方法を描くということを取り上げられた。その面から見ると、

生態観察のために工夫したユニークな方法として

- 森林の中を歩く時は必ずフランネルの布を体にまきつけたり、ひきづって歩く。この方法で、森林に生息するダニ等の寄生動物を生きたまま苦もなく採集できるばかりでなく、たえずハブなどの危険に備えることができる。
- 毎晩、同じコースの林道をジープでまわり、眼にとまった動物を残さず録音テープに記録していく。4年間にわたるそれらの記録を整理すると、どこにどのような動物が生息しているかという奄美の原生林の動物分布図ができるほどになった。
- 寄生動物とその宿主の間の特異性を利用する。つまり、巣穴の土を採集し、その中のダニなどの種類を調べれば、それが何の巣穴か推理できる。この方法で数少く貴重な動物達を脅かしたり捕獲したりしないでその生態を観察できる。
- 土地の人々の話や残されている記録に学ぶ。30年に及ぶハブの捕獲記録を残しているハブ取り名人の南さんの話を聞き、取り方を教えてもらうことで、ハブの自然界における行動を追跡できた。
- クロウサギの糞やかみ跡を調べ、その生息数や分布を推理する。また、特別天然記念物のアマミノクロウサギをとらえて調べるところがクライマックスになっている。

■この作品に登場する主な動物

アマミノクロウサギ アマミトゲネズミ ケナガネズミ ハブ
ヒメハブ アカマタ メクラヘビ ヒアン ルリカケス アマ
ミヤマシギ リュウキュウアカショウビン キノボリトカゲ
オオシマトカゲ アマミノアオガエル サソリモドキ 及びそ
れらに寄生するマダニツツガムシなど

製作

株式
会社

桜映画社

東京都新宿区西新宿1-22-1
スタンダードビル ☎03(342)5768
〒160 FAX03(346)1844